

平成 28 年度市政モニター提言に対する現状と対応について

I 観光について

《県庁所在地として品格のある街づくりについて》

【提言 1】

市街地をはじめ、水戸の街を歩いていると、ゴミが落ちていたり、雑草が生い茂っていたりする。観光客から見た場合、非常に汚らしい街という印象を与えることが考えられることから、日頃から清掃や除草を行い、きれいで清潔な街づくりを行って欲しい。

【現状と対応】[担当：ごみ対策課，公園緑地課，土木補修事務所・道路管理課，都市計画課]

清潔な生活環境の保全に向けて、自治会や町内会をはじめ、各種団体や個人の方など、多くの市民の方に御協力をいただき、市街地をはじめとする市内全域の清掃活動を行っております。そのような活動に対し、市では収集したごみの回収や、ボランティア袋を配布するなどの取組をしております。

また、多くの観光客が利用する、水戸駅や赤塚駅前の駅前広場の清掃及び除草の管理等については業務委託により毎日実施しております。

市内の公園につきましても、定期的な清掃を実施しており、中心市街地に隣接した本市のシンボル空間である千波公園では、主要な園路やトイレの清掃を毎日行っております。そのため、利用者の皆様からも、きれいな公園であるとの声をいただいておりますので、引き続き、きれいで清潔な公園となるよう努めてまいります。

市道路敷に繁茂する雑草については、業務委託方式によって、定期的に除草を行っております。特に、市街地の道路や主要幹線道路につきましても、年 2 回除草を実施しているところでございます。

さらに、道路管理課において、『水戸市道路里親制度事業』という制度をとり入れ、水戸市が管理する道路において、自発的に清掃美化活動等のボランティア活動を行う住民団体等を市道の里親として認定・支援することにより、地域にふさわしい道づくりを推進するための、支援等を行っております。

御提言を踏まえ、引き続き、観光客からきれいで清潔な街と思われるよう努めてまいります。

【提言 2】

道路の路面標示が消えかかっている、分かりづらいことがある。水戸市に住んでいても判断に迷うことがあるので、観光客はもっと判断に迷うことが考えられる。

このようなことから、日頃から定期的に点検し、消えかかっている箇所については、早急に

対応するようにはどうか。また、市民が発見した場合、すぐに通報できるようなシステムを構築してもよいのではないか。

【現状と対応】 [担当：道路管理課・情報政策課]

老朽化が進む道路の舗装や道路付属物等につきましては、修繕を進めるとともに、日常的に道路の点検を行い適正な維持管理に努めてまいります。なお、現在、茨城大学と共同で、スマートフォンなどを利用して道路の破損箇所などの情報を市に提供できるシステムの運用に向けて実証実験を進めているところです。

《公共交通機関等について》

【提言 3】

水戸駅の発車ベルを水戸黄門のテーマ曲にして、水戸市のPRをしてはどうか。

【現状と対応】 [担当：交通政策課]

近年、駅が立地する自治体のイメージアップ等を目的に、いわゆる御当地発車メロディーを導入する自治体が増えており、御提案につきましても、本市のPRに一定の効果があるものと考えられます。

その一方で、水戸駅で現在使用している発車メロディーは、ホームごとに本市のイメージに基づき作曲されたものであり、また、JR東日本管内では、最も歴史があるものとなっていることから、多くの方に親しまれているところです。

JR東日本によると、発車メロディーの変更につきましては、地元自治体の要望に基づき、協議を進めるということですので、本件につきましては、機運を見極めながら検討してまいります。

【提言 4】

観光タクシーについて、様々な観光パンフレットを見たが、「るるぶ特別編集水戸市」に掲載されているのみであった。その「るるぶ特別編集水戸市」にも問合先が記載されているのみで詳しい情報が掲載されていない状況であった。

観光タクシーについては、認知度が低いことが考えられることから、さらなるPRが必要なのではないか。

また、どのようなコース（所要時間別等）があるのか、ジャンボタクシーの利用が可能なのか等の記載は必要なのではないか。

なお、一般のタクシーについても、観光客から指定された場所のみ運行するのではなく、「ほかにも、水戸の観光地として〇〇もあります。お時間があれば、どうですか。」など、別の観光地を紹介してもよいのではないか。観光に関する勉強会など、関係者が集まる機会があれば、1つの意見として伝えてほしい。

【現状と対応】 [担当：観光課]

観光タクシーの情報につきましては、「るるぶ特別編集水戸市」のほか、「水戸市観光マップ」や専用のチラシにおいて、問合せ先の情報はもちろんのこと、優良タクシー乗務員が案内する観光コースとあわせ、所要時間や所定運賃等を案内しております。また、市のホームページにおきましても、優良タクシー制度の事業概要、認定された乗務員や優良タクシー乗務員の所属する事業所等の情報発信を行っており、タクシーの利用促進を図っているところであります。

今後、観光地としての魅力を高め、観光客等の利便性、回遊性の向上を図るため、御提言の観光タクシーについてのPRを強化していくとともに、タクシー利用による観光コースやタクシーの種別等、きめ細かな情報提供を行ってまいります。

また、乗務員による観光資源の紹介についてのご提言につきましては、現在、茨城県ハイヤー・タクシー協会と連携して、市内の各タクシー事業所から選出された乗務員を対象に、おもてなしや観光案内の研修を実施するなど、優良タクシー乗務員認定事業を展開しております。

引き続き、本事業を通じ、乗務員による観光案内の充実、おもてなしの意識醸成を図り、業界全体におけるホスピタリティの向上に努めてまいります。

【提言5】

レンタサイクル貸出所については、水戸駅北口レンタサイクル貸出所、水戸駅南口レンタサイクル貸出所及び千波湖・桜川レンタサイクル貸出所の3か所がある。

水戸駅南口レンタサイクル貸出所及び千波湖・桜川レンタサイクル貸出所については、どちらでも返却が可能であるが、水戸駅北口レンタサイクル貸出所には返却できない。

また、水戸駅北口レンタサイクル貸出所で借りたレンタサイクルについては、他の場所では返却できない。利便性を考えると、どこでも返却できるようにしたほうが良いのではないかと。

併せて、水戸駅に、自転車専用の通路や自転車専用のエレベーターを設置し、水戸駅北口⇄南口の回遊性を良くすればどうか。

さらに、レンタサイクルを貸し出す際に、中心市街地の食事処やお土産売り場の掲載されているパンフレットを配布することにより、中心市街地での食事やお土産を購入する人も増えるのではないかと。

【現状と対応】5 [担当：交通政策課・観光課]

本市のレンタサイクルは、観光目的での利用が主となっておりますが、貸出及び返却場所が限定されており、まちなかや観光施設等の駐輪環境も十分でないことから、より回遊性を向上させるための取組が必要です。

そのため、平成28年度に策定した「水戸市自転車利用環境整備計画」では、施策にコミュニティサイクル等の整備を位置付け、平成29年度は、そのあり方を検討することとしており、ビジネスや買い物利用をはじめ、観光で本市を訪れる方にとって利用しやすいシステムを構築してまいります。

また、同計画では、連続的な自転車通行空間を整備するため、自転車ネットワークについて

も定めており、水戸駅の南北を含めた回遊性の向上に努めてまいります。

なお、貸出時におけるパンフレット配布につきましては、既に取り組んでいるところですが、ご提言の食事処や土産品売り場の情報を提供することで、消費の拡大やまちなかのにぎわいにつながるものと考えられますので、貸出所におけるパンフレットやチラシの充実を図り、積極的な観光情報の発信に取り組んでまいります。

【提言 6】

観光客が電車で来ることも考えられるため、水戸駅のペDESTリアンデッキに、水戸駅周辺の観光案内板を設置してはどうか。また、観光客が電車で来た場合、当然ながら電車で帰ることとなる。自分の腕時計や携帯電話で時間を確認することも出来るが、南口に時計が設置されていないので、設置すれば、観光客に対し親切になるのではないか。

【現状と対応】 [担当：観光課・市民相談室]

水戸駅の北口及び南口ペDESTリアンデッキにおける観光案内板につきましては、平成 27 年度から、多言語表記も含め、計画的な観光案内板の更新を進めているところであります。

昨年度におきましても、水戸駅周辺や市内一円の観光施設や公共施設等の情報を掲載した案内板や、弘道館や偕楽園公園等を案内する歩行系の誘導案内板を改修したところであり、引き続き、観光客に分かりやすい観光案内板の更新を進め、受入環境の向上に努めてまいります。

南口の時計設置については、実施主体の確認などを含め、今後の課題とさせていただきます。

【提言 7】

郊外に無料駐車場を作り、定額 1 日フリーパスで中心市街地や観光地を循環する市内循環バスを運行させれば、乗り降り自由となるため、自由に目的地に行き来できるのではないか。

【現状と対応】 [担当：交通政策課]

本市の現在の路線バスは、市中心部の一部区間に集中しており、複数の交通事業者により運行されていることから、路線が複雑で分かりにくい状況となっています。

循環バスは、市内の地理に不安がある方でも安心して利用できることから、市民の足としてはもちろん、本市を初めて訪れる観光客にとっても分かりやすく利便性が高いものと認識しております。一方で、現在でも中心市街地を循環するバス路線はあるものの、利用が伸びていないという実態もあり、運行経路や運賃の設定等も課題となっています。

本市では、現在、各バス事業者と路線の再編に向けた協議を行っているところであり、御提案につきましても、この中で検討してまいります。

また、フリーパスにつきましては、茨城交通(株)から「水戸黄門漫遊 1 日フリーきっぷ」が販売されており、平成 28 年 2 月からは、利用者の利便性の向上を図るため、関東鉄道(株)及び関東鉄グリーンバス(株)の路線バスでも利用できるようになったところです。現在では、年間約 2 万人以上の方に御利用いただいているところであり、引き続き、当切符の PR 等に努め、利用促

進を図ってまいります。

《観光・施設等について》

【提言 8】

偕楽園について、ゆっくり寛ぐことのできる施設も少なく、偕楽園の周りにもそういう施設がないため、長時間の滞在が難しい。このようなことから、水戸市での長時間の滞在や宿泊を考えた場合、ゆっくり寛げるような施設の充実が必要ではないか。

【現状と対応】 [担当：観光課]

偕楽園公園本園内におきましては、観光案内や土産品販売とあわせ、休憩施設としての機能を持つ県観光物産協会運営の「見晴亭」があるほか、東門付近には、本市の特色ある食資源が味わえる民間の飲食施設があります。

また、地域振興、観光、まちづくりに関連する団体などで構成し、県が事務局を務める「偕楽園公園魅力向上懇談会」では、現在、管理事務所などが入る偕楽園公園センターについて、公園利用者の休憩所として有効利用していただくための施策等を協議、検討しているところでもあります。

今後とも、県や民間事業者と連携しながら、偕楽園公園センター等の休憩施設の充実を図り、受入環境の向上に努めてまいります。あわせて、休憩機能のほか、見て楽しめる魅力、体験型の魅力の向上を図り、長時間滞在し、宿泊してみたいと思われる観光地づくりを目指してまいります。

【提言 9】

偕楽園について、東門のところに観光案内所があり、チラシや観光ボランティアの案内があった。他の門から入った場合、東門にたどり着くまで気づかないことが考えられる。他の門から入った場合でも、チラシの設置や観光ボランティアの情報などが分かるようにしておいたほうがよいのではないか。

【現状と対応】 [担当：観光課]

偕楽園への入園口は、東門をはじめ、好文亭表門、南門や御成門がございます。そのため、それぞれの門の付近には、園内の好文亭や見晴亭、観光案内所、トイレ等施設の位置情報を掲載した案内板が設置され、あわせて「偕楽園の歩き方」、「偕楽園ガイドマップ」のチラシも配置されております。

ご提言いただいた、チラシの設置や観光ボランティアの情報について、更に、誰もがわかりやすい案内、効果的な情報提供に取り組んでまいります。

【提言 10】

みとちゃんのコスプレができるような場所を作ってはどうか。偕楽園の周辺や千波湖周辺であれば、さらに集客率も上がるのではないかな。

また、顔出しパネルを作ってもいいのではないかな。パネルには、顔出し用のみだと、キャラクターが分からないことも考えられるため、顔出し用のほか、みとちゃんのキャラクターを描くことにより、みとちゃんを広くPRすることができるのではないかな。観光客にとってもいい思い出になるのではないかな。

同様に茨城県のハッスル黄門も作ってみるのもよいのではないかな。

【現状と対応】 [担当：観光課]

本市では、効果的な観光情報の発信、観光施設等への誘客を促進するため、マスコットキャラクター「みとちゃん」を活用したシティセールスを積極的に推進しているところであります。

御提言いただいた「コスプレができるような場所」や「顔出しパネル」の設置につきまして、更なる誘客、本市のイメージアップ、おもてなしの向上に資する効果的な取組の一つと考えられますので、今後、その手法や場所等を含め、県をはじめ、施設管理者や関係団体と検討してまいりたいと考えております。

【提言 11】

七ツ洞公園について、4つのダムをはじめ、公園内のポイントごとの説明を掲載した案内板を設置してはどうか。説明がないと分からないと思われる。アプリによる説明もあるようであるが、案内板を設置したほうが高齢者の方にも分かりやすいと考える。

また、トイレについても、場所が分かりづらいことから、案内板を設置してはどうか。すでに設置されているのであれば、数を増やしたほうがよいのではないかな。

【現状と対応】 [担当：公園緑地課]

現在七ツ洞公園では、従来の案内看板方式とは異なり、スマートフォン等のアプリを利用した現地案内システムを導入し、公園の案内をしております。これは、斬新さを売りとしていることと、当公園が風景式庭園であるため、景観を損なわないようにとの配慮によるものです。

また、高齢者の方等でスマートフォン等を使用していない方へは、現地で案内パンフレットを用意しております。

今後、扱いやすい現地案内システムへの改善や、案内パンフレットの内容の充実、景観に留意したトイレの案内板等について検討をしてまいりたいと思います。

【提言 12】

七ツ洞公園について、英国式ティーラウンジ等、女性の好みを満たす飲食の場所を作ってはどうか。

また、売店が無いので、バラの苗木が購入できる店やポプリやバラグッズの販売をしてはどうか。

【現状と対応】 [担当：公園緑地課]

現在、七ツ洞公園では、公園の認知度やにぎわい向上を目的に、バラをはじめ草花がきれいに咲く時期に、月1・2回の頻度で大小のイベントを民間との協働事業で開催しており、その際には飲食の提供や、花々、その他雑貨等の販売を行っています。来園者のニーズに合わせ、飲食サービスの提供や販売等の充実・拡大ができればと考えております。

今後、1年を通じてのサービスの提供等につきましては、公園利用状況や費用対効果等により実現化の検証をしてまいりたいと思います。

【提言13】

観光に関する様々なパンフレットを発行しているが、認知度が低いように感じる。効率の良い配置場所を検討するなど、既存パンフレットのさらなる有効活用を考えてみてはどうか。

【現状と対応】 [担当：観光課]

現在、本市の各種まつりやイベント情報、観光施設や土産品等を案内したパンフレットやマップ、冊子等につきましては、より多くの観光客等がパンフレットを手にとる機会が増えるよう、本市の玄関口であるJR水戸駅内にある観光案内所をはじめ、市役所庁舎、市内の飲食店や宿泊施設など、人が多く集まる場所に配布、設置しております。

ご提言いただいた既存パンフレットの認知度向上、更なる有効活用を図るため、今後とも、観光情報などの掲載内容を充実していくこととあわせ、配置場所やデザイン等につきましても、水戸観光コンベンション協会や観光関係団体との検討を進めてまいります。

【提言14】

水戸駅周辺にショッピングモールのような施設を建設してはどうか。電車で来る観光客や市外の方の集客が期待できるのではないか。

【現状と対応】 [担当：商工課]

水戸駅周辺は、本市の玄関口として、公共的な性格も有しているエリアです。

平成28年6月17日に国の認定を受けた中心市街地活性化基本計画において、歴史・芸術・文化などを中心に、水戸駅周辺地区、南町周辺地区、泉町周辺地区、大工町周辺地区の4つの地区の特色や資源を生かしたまちづくりを進めることとしたところであります。

水戸駅周辺にショッピングモールのような施設の建設をしてはとのご提言ですが、中心市街地全体のにぎわいを創出していくためにも、一極集中ではなく、水戸駅から大工町までの約1.5kmの区域において、商業をはじめ、業務、サービス、居住等の連続性のある複合的機能の集積を目指してまいりたいと考えております。

その実現のためにも、交流拠点機能の強化、歴史まちづくりによる観光機能の強化のほか、観光資源と芸術文化の拠点相互の観光ルート設定やパッケージ化、さらには、それらをネットワーク化することで回遊性を高めるなど、様々な施策を推進し、観光交流人口の増加を目指し

てまいります。

《既存施設の有効活用について》

【提言 15】

水戸名産の納豆で、納豆パークを作ってはどうか。施設を建設するとなるとお金がかかるため、既存の展示館などを有効活用してみてもどうか。

【現状と対応】 [担当：観光課]

本市を代表する特産品の一つである納豆につきましては、平成 28 年、納豆消費金額日本一を奪還したことによって、全国に対し、納豆の聖地が水戸であることを改めて PR することができました。引き続き、本市ならではの魅力ある観光資源として、積極的に情報発信してまいりたいと考えております。

現在、本市内には、民間企業による納豆の展示館や製造工場があることから、事業者や関係団体との連携を密にし、これら観光資源を積極的に PR していくとともに、納豆の食べ方の工夫や料理の開発を行うなど、新たな魅力を創出し、更なる観光誘客に努めてまいります。

※【提言 16（民間施設に対する提言）】

どこの施設の商品売り場でも、商品名と金額が記されているだけの値札が貼ってある。せいぜいあっても、そこに会社名がプラスされているだけである。それだけではなく、その会社の案内のポップを貼ったり、パンフレットがある場合には、置いておけば、直売所や展示館にも足を運んでもらえると思う。直売所等に行けば、観光地では手に入らない商品も、購入することができるのではないかな。

※【提言 17（民間施設に対する提言）】

看板がない施設があるので、看板を設置し、分かりやすくしたほうがよいのではないかな。また、職員のいない施設もあるので、その場合には、「どうぞご自由にご覧ください」という貼り紙を貼っておけば、気軽に見学ができるのではないかな。

※【提言 18（民間施設に対する提言）】

展示室に職員のいない施設がある。職員を配置できないのであれば、お客様が質問できるように、呼び鈴又はインターフォンを設置すれば、その場で質問できてよいのではないかな。

※【提言 19（民間施設に対する提言）】

湿気た試食品を置いている施設があった。それでは購買意欲がなくなってしまうので、ベストな状態のものを置くように、定期的にチェックをする必要があるのではないかな。

【現状と対応】 [担当：市民相談室]

※ 提言 16～提言 19 につきまして、御提言は関係課に伝えましたが、民間や個人の施設・商店についての内容になりますので、直接の対応は難しいところです。

【提言 20】

施設の方、駐車場の警備員やボランティアの方の中に、挨拶など基本的なことができない方がたくさんいる。挨拶を積極的にしてくれる施設には、好感を持って、次に繋がる一步になると考える。おもてなしの心を身に付ければ、リピーターも増えるのではないか。

【現状と対応】 [担当：観光課]

本市におきましては、おもてなしの向上に向け、これまで、水戸おもてなしマイスター認定制度や優良タクシー乗務員認定事業、市民一人ひとりの取組を発信する、おもてなし水戸っぼ隊のホームページ開設等に取り組んできたところであります。

おもてなしによる心からの感動は、観光地の印象に大きく左右するものであることから、今後一層、観光客を温かく迎える意識の醸成を図っていかなければならないものと考えております。

そのため、おもてなしガイドブックの配布や、市民向けおもてなし講座の開催、おもてなしマイスターの活用等を通し、市民、事業者、行政が一体となった、まち全体のおもてなし力をより一層向上させ、観光客等から「また訪れてみたい」と思われるまちづくりを推進してまいります。

《イベント等の企画について》

【提言 21】

水戸まちなかフェスティバルや、今年度から水戸黄門漫遊マラソンが開催されているが、まだまだ、イベントが少ないように考える。

このようなことから、大きなイベントをもっと増やし、多くの人に来てもらえるようにしてはどうか。また、経済の活性化のために、お金をたくさん使ってもらえるような仕組みづくりをみんなで考えたらどうか。

また、子ども向けの体験イベントが少ないように感じられるため、増やしてみてもどうか。例えば、子ども達に水戸をもっと知ってもらうため、また、中心市街地活性化のために、クイズ形式のマップを作成したり、スタンプラリーを実施したりして、親子で楽しんでもらえるようなイベントを実施してはどうか。

【現状と対応】 [担当：商工課・観光課]

本市においては、多彩な文化や交流の創出、地域経済の活性化につなげるため、市内各所において、年間を通して、季節や場所に応じた様々な内容のイベントを意欲的に開催しております。

子ども向けイベントにつきましても、水戸の梅まつりやつつじまつりにおいて、着物を着て写真を撮る「ちびっ子ひなまつり」、兜や打ち掛けの時代衣装を着て写真を撮る「ちびっ子時代まつり」を新たに実施したところであり、ふるさと農場や植物公園においては、例年、ジャ

ガイモやサツマイモ掘りの体験イベントを実施するなど、様々な分野で、子ども、親子体験型のイベントの充実を図っているところであります。

また、市内では、行政が主催するイベント以外にも、民間事業者や商店街団体等が主催し、それぞれの地元や中心市街地、千波湖周辺などで、シーンにあわせて数多くのイベントが開催されているほか、ゴールデンウィークをはじめ、春休みや夏休み等の期間には、市内の各施設などで様々な子ども向けの体験教室も開催されております。

これら行政、民間それぞれが主体となった数多くのイベントが開催され、にぎわいが創出され、水戸の魅力が発信されておりますが、さらに多くの方に来訪いただけるよう、効果的なPRに努めるとともに、商店街等との連携により、地域内消費の拡大につながる取組も進めてまいります。

あわせて、子ども達に水戸を知ってもらい、郷土愛の醸成を図るよう、まちなかでのイベントの充実、魅力向上に向けた検討を進めていくとともに、継続的に地域経済の活性化を図られるよう、さらなる官民連携を図りながら、イベント等を実施してまいります。

【提言 2 2】

ラーメンまつりで、水戸市内の出店が少ないように感じる。水戸藩ラーメンやスタミナラーメンなどがあるので、出店を依頼してはどうか。

また、黄門料理も含め、観光客に対し、水戸郷土グルメとして広くPRしてはどうか。

なお、黄門料理については、値段が高いため、家族連れや若いグループ、カップルには、手が届きづらいので、少額で少しイメージできるような料理の準備も必要と考えます。

【現状と対応】 [担当：観光課]

(一社)水戸観光コンベンション協会主催による「水戸のラーメンまつり」は、平成27年度から2回開催され、全国の有名ラーメン店だけではなく、地元のラーメン店も共同で出店し、普段食べることのできないオリジナルラーメンが提供されました。

また、会場と隣接する黄門像広場には、飲食・物販ブースとして「黄門さまの台所」が併設され、来場者に対し、水戸藩らーめんをはじめとした地元の特産品や土産品の販売も行われ、来場者から好評をいただいたところであり、本市の魅力あるグルメや食資源のPR、観光交流人口の増加が図られたものと認識しております。

今後とも、飲食店関係者等の協力を得ながら、本市の特色ある食資源、郷土料理を効果的にPRする手法とあわせ、観光誘客、経済活性化に資する食のイベントの開催について検討してまいります。

【提言 2 3】

朝井まかて作の「恋歌 (れんか)」を映画化もしくはドラマ化できないか。

樋口一葉の師、中島歌子の半生。主人公が水戸藩士に恋し、結婚にたどりつく恋愛物語。

2013年直木賞受賞作であり、芯の部分が恋物語なので、若手人気俳優を起用すれば、女性に受

け入れられやすいものと思われる。

また、水戸の気質や天下の魁を謳いながら明治維新で活躍できなかった水戸藩士についても広く理解され、絶好の水戸PRツールになると思う。

※第150回直木賞受賞【平成25年下半期（平成26年1月16日受賞発表）】

【現状と対応】 [担当：みとの魅力発信課]

『恋歌』は、江戸時代末期から明治時代にかけての激動の時代を生きた中島歌子の生涯を描いた作品であり、幕末の水戸藩の状況も描写されています。そのため、本作品は、多くの方に水戸の歴史を知っていただくきっかけとなることから、本市でも『恋歌』の発売当時に関連する情報の発信を行いました。

水戸の歴史に係る小説等の映像化につきましては、過去に『桜田門外ノ変』があり、市民が中心となり設立した映画化を目指す組織に対し、水戸市で支援を行った事例があります。

現在のところ、市民団体等による『恋歌』の映像化に関する情報について把握しておりませんが、そのような企画が立ち上がった際には、みとフィルムコミッションとして、本市へのロケの誘致に努めるほか、作品の舞台としての水戸のPRに努めてまいります。

《食事処・名産品等について》

【提言24】

偕楽園レストハウスでは、そこでしか食べられないメニューがあるが、時間が限定されている。観光客がいつでも食事できるように、常時食べられるようにしてはどうか。

【現状と対応】 [担当：観光課]

偕楽園レストハウスでは、本市を代表する梅や納豆など、メニューに水戸独自の資源を生かした要素を取り入れることとあわせ、特に梅まつりの期間に限定した特別企画など、季節に応じた付加価値を付与した水戸ならではの郷土料理が提供され、食資源を通じた本市の魅力を発信していただいております。

引き続き、納豆料理をはじめとした本市の特色ある食資源の情報発信を強化するとともに、より多くの観光客が料理を堪能できるよう、ご提言の営業時間も含め、事業者と協議を行ってまいりたいと考えております。

【提言25】

水戸駅周辺や偕楽園にゆっくり座って食事をできる場所が少ないと感じる。また、水戸に住んでいても、地元の食材を使用したお店も分からないため、観光客はもっと分からないものと思われる。市民に対しても含め、PR方法を検討したほうがよいのではないかと。

【現状と対応】 [担当：農業技術センター・観光課]

本市では、地場農産物の地域内流通促進を目的とし、市内飲食店等業務店側から地場農産物の利用を促すため、平成24年度から地場農産物の利用店（『水戸美味』登録店）の募集と店舗のデータベース化を開始し、平成28年度末には63店舗が登録されております。

PRについては、水戸美味HPをはじめ、広報みとにて水戸美味店及び市内農産物直売所の記事掲載、フリーペーパーの月刊ぷらざにて水戸美味店の記事掲載、IBSラジオの「ハッピーランチ」や「いばキラTV」において水戸美味店の紹介等を行ってきました。現在、スマートフォン向けアプリ「水戸のこと」にて水戸美味店の連携や、市内マップ入りのPRチラシ作成を行い、更なるPR強化と水戸美味登録店拡大を進めてまいります。

【提言26】

観光客は車で来る人も多いと思われる。「るるぶ特別編集水戸市」に掲載されている食事処の大半で駐車台数が少ない、または、駐車場がないことから、水戸市で食事をしてもらうことを考えると、近隣の駐車場を掲載するか、もしくは、駐車場があるお店を掲載したほうがよいと思われる。

【現状と対応】 [担当：観光課]

本市作成の「るるぶ特別編集水戸市」は、市外向け情報誌として、本市の持つ歴史や文化、自然などの魅力的な観光資源を紹介するとともに、納豆料理をはじめ、黄門料理、うなぎ料理など、本市の特色ある郷土グルメやカフェなどの食資源や施設の情報等を掲載し、観光誘客の促進を図ることにあわせ、市内を訪れた際の案内ガイドの役割も担っております。

本市を訪れる多くの観光客が、交通手段として自家用車を利用していることから、るるぶをはじめとする観光情報誌やパンフレットにおいて、飲食店舗とあわせて駐車場の情報を提供することは、観光客の利便性の向上につながるるとともに、誘客効果を高めるものと考えられます。

今後、観光情報誌やパンフレット等の作成に当たっては、ご提言の駐車場を有する店舗情報の掲載を含め、本市を訪れる観光客の視点に立った、より効果的な情報の提供、発信に努めてまいります。

【提言27】

水戸は、梅も名産と考えられる。現在も梅を使用した様々な商品があるが、まだ、全国的には、知名度が低いと思われる。このようなことから、手頃な価格の梅の商品（少量多種）を作り、もっと、水戸の梅の商品について、PRをしてはどうか。

【現状と対応】 [担当：農業技術センター]

本市は、日本三名園のひとつである偕楽園の観梅で全国に知られていますが、食用の梅の実の流通はわずかしかなかった。そこで、「観ても、食べても楽しめる梅の産地」を目指し、平成24年度から梅のジョイント栽培という農業新技術を取り入れて、梅の生産を進めてきま

した。

平成 28 年度から初収穫された水戸産の梅を「ふくゆい」と命名し、梅にまつわる歴史点、利点を生かしたブランド力アップに努めています。

現在、梅まつり期間に、水戸菓子工業協同組合と連携し「水戸梅お菓子プロジェクト」を立ち上げ、水戸産梅「ふくゆい」を使った梅菓子の販売・PRを行っております。今後は、生産量も増えていくことから、水戸産梅「ふくゆい」にこだわった梅干しや梅酒等のオリジナルブランド商品開発を進めていきます。

【提言 28】

スーパーなどで販売している身近な商品（納豆など）のパッケージに「みとちゃん」をプリント（必ず、水戸市キャラクターと表示）して、県内外のスーパーに陳列してもらえば、認知度も上がり、観光客も増えるのではないかと。

【現状と対応】 [担当：観光課]

キャラクターを活用するなど、商品パッケージのデザイン性を向上させることは、観光特産品の魅力を高める重要な要素の一つであるとともに、民間事業者のデザインに対する意識が醸成され、新たなブランドの構築にもつながるものと考えております。

すでに取り組んでいる事業者もごさいますが、商品パッケージのデザインや県外等への出品に関しては、事業者の意向、事業者からの協力が必要でありますことから、関係団体を通じた働きかけの方策等について、十分検討してまいります。

《外国人観光客について》

【提言 29】

観光地での Wi-Fi 環境は、徐々に整備されつつあると思うが、QR コードを使った外国語（できれば複数語）による解説があるとよいのではないかと。

【現状と対応】 [担当：観光課]

現在、本市における外国人向けの情報提供の手法として、多言語によるホームページや案内板、外国語版パンフレットやイベントPR チラシの配布、ボランティア対応による施設案内等に取り組んでおります。ご提言の QR コードを使った外国語の解説は、情報発信の手法の一つとして、効果的であると考えられます。

時代の変化や多様化する社会のニーズに対応していくためにも、県や施設管理者等と連携し、外国語による情報提供システムの構築、導入をはじめ、スマートフォン用アプリや SNS の更なる活用など、戦略的かつ効果的な情報発信の手法について検討してまいります。

【提言 30】

インターネットからの口コミは、PR効果が大きいので、民間のホテルや旅館、レストランなどにWi-Fiを導入するように働きかけを行ってはどうか。

【現状と対応】 [担当：観光課]

Wi-Fiは、外国人観光客にとって、観光情報の入手やSNSでの情報発信における重要な基盤となっており、本市では、これまで、市立図書館6か所のほか、三の丸臨時庁舎や水戸観光案内所等市内6か所の拠点において、来庁者及び観光客の利便性向上を目的としてWi-Fiを設置し、運用を行っております。

Wi-Fi環境を整備することは、インターネットを活用して発信する情報をより広く、効果的に国内外へ周知することのできる有効な手法の一つであることから、水戸観光コンベンション協会や茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合等の関係団体を通じ、ホテルや旅館、飲食店などに対するWi-Fiの導入を働きかけ、外国人観光客が訪れやすい環境づくりを行ってまいります。

【提言 31】

偕楽園に行き、好文亭を見学したが、英語のパンフレットはあったものの、外国語の説明看板がなかったような気がする。施設の説明看板はもとより、好文亭内の細かな展示物などにまで外国語の表示をつけてはどうか。

また、「Welcome」の看板1つあるだけでも外国人に歓迎の気持ちが伝わり、何も無いのとは全然違うと考える。

【現状と対応】 [担当：観光課]

外国人観光客を呼び込み、本市のインバウンド観光を推進していくためには、外国語表示の案内や歓迎の意を込めた看板の設置など、おもてなしに資する取組みを進めることが重要です。

本市では、外国人観光客に対応するため、外国語の観光案内パンフレットの作成や4か国語を併記した観光案内板の設置など、言語のバリアフリー化を進めるとともに、公共施設等におけるWi-Fiスポットの整備、外国語ボランティアの育成などの受入体制を整える取組みを行ってきたところであります。

偕楽園好文亭をはじめ、各観光施設等について、水戸を訪れた外国人観光客が安心して滞在できるよう、県や施設管理者と連携しながら、多言語併記の案内板整備とあわせ、観光情報の多言語表示の拡充を図るとともに、また訪れてみたいと思われるよう、観光客を温かく迎えるおもてなし、意識を醸成し、外国人観光客の受入環境の充実に取り組んでまいります。

【提言 32】

近隣市町村内観光地との連携による観光コースを設定してはどうか。例えば、目的（自然・歴史等）に応じた観光コースの設定や季節に応じたコースなどを設定してはどうか。

また、あんこうの吊るし切りパフォーマンスを見てのあんこう鍋の食事、日本で最初にラーメンを食べた徳川光圀のエピソードを交えての水戸藩ラーメンの食事、日本のおいしい果物をたくさん買って帰るアジア系の外国人も多いことから、いちご狩りやメロン狩り、レストランメニューに果物の食べ放題を付けたりするのもよいのではないか。

【現状と対応】 [担当：観光課]

観光における都市間競争が激化する中において、近隣市町村との連携は、それぞれの持つ資源を結びつけることにより、新たな魅力や価値を創出するとともに、回遊性の向上、そして滞在型観光の促進にも寄与することから、広域的な観光資源のネットワーク化は重要な施策の一つであると考えております。

現在、本市を含む県央9市町村で構成する「いばらき県央地域観光協議会」においては、周遊型観光を推進するため、圏域内の魅力ある観光施設や食資源等を活用した「水戸八景グルメライド」を開催し、県央地域全体のイメージアップ、誘客促進を図っているほか、今年度からは、各市町村における観光資源の発掘や商品化のための検討を行い、旅行商品の開発、周遊ツアーの造成など、広域による観光事業を積極的に推進しているところであります。

今後、当協議会の広域連携事業を通じて、あんこう鍋や水戸藩らーめんなど、特色ある食資源の情報発信はもちろんのこと、県央地域ならではの様々な体験を取り入れた広域的な観光コースの設定など、地域内観光資源の相互連携を図り、新たな魅力や価値を創出し、更なる観光誘客、地域活性化に努めてまいります。

【提言33】

黄門まつりやその他イベント時に、外国人観光客に浴衣や着物体験をしてもらってはどうか。市報等で呼びかけ、着なくなった浴衣や着物を提供してもらえばよいと考える。

【現状と対応】 [担当：観光課]

近年、外国人観光客の誘客を図るため、外国人向け観光PR動画の制作、外国語観光パンフレットの作成や4か国語対応の案内板の設置のほか、外国人を対象とした日本文化体験プログラムの開発、水戸黄門まつり等のイベント参加の促進など、積極的な観光情報の発信、受入環境の整備に取り組んでおります。

水戸黄門まつりにおいて、その一端として、外国人英語指導助手を対象に、日本文化を象徴する法被を着てのみこし体験や、胴着を着ての武道体験などの取組を進めております。また、水戸の梅まつりにおいては、新たなイベントとして、着物で偕楽園を散策していただく「観梅着物DAY」を実施し、外国人観光客をはじめ、多くの参加者から好評を得たところであります。

今後とも、各種メディア等様々な媒体を活用した情報の発信、プロモーション活動を実施していくとともに、水戸市国際交流協会や関係団体等と連携しながら、本市ならではの文化体験プログラムの充実を図り、官民一体となって、外国人観光客の誘致に努めてまいります。

Ⅱ 子育てについて

《保育所・幼稚園について》

【提言 1】

公立幼稚園では、事務担当の職員がいないため、先生が忙しいとのこと。そのことが、保育時間の延長や預かり保育に影響しているのであれば、財源や人材を確保し、先生を増員してはどうか。

【現状と対応】 [担当：幼児教育課]

幼稚園の事務については、専任園長や教頭が行っておりますが、様式の簡素化やメールでの提出とするなどの取組や、複式学級や専任園長の園では用務嘱託員を配置するなど、幼稚園教諭の事務の負担軽減を図っております。また、預かり保育については、指導員の確保のため、広報みと、市のホームページ及びハローワーク等において、指導員の募集を行っております。

今後も、事務の見直しや、預かり保育の指導員の確保等に努め、幼稚園教諭が教育・保育に専念することができるよう努めてまいります。

【提言 2】

定員割れをしている公立幼稚園を他の公立幼稚園と統合してはどうか。統合することにより、先生の増員が図れ、保育時間の延長や預かり保育等の問題も多少改善するのではないかと。

また、統合により通園の距離が長くなることから、幼稚園バスでの送迎や保護者の送迎用の駐車場の確保も必要と考える。

【現状と対応】 [担当：幼児教育課]

市立幼稚園・保育所について、様々な立場の方から御意見をいただくため、専門的知見を有する学識経験者、保護者や民間事業者の代表、効率的運営に関する知見を有する行政評価委員等を委員として構成する「水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会」を立ち上げ、第1回の検討会を平成28年6月に開催し、その後、概ね隔月で開催しております。この検討会の中で、市立幼稚園の充足率の現状等を勘案した上で、市立幼稚園・保育所のあり方について、方針を取りまとめることとしております。

【提言 3】

先生のスキルの差が、激しいように感じる。研修制度を充実させ、スキルアップに努めてはどうか。

【現状と対応】 [担当：幼児教育課]

幼稚園教諭・及び保育士の研修については、現在、幼稚園・保育所職員相互実務研修や公開

保育における協議等を実施しております。また、幼稚園教諭と保育士との人事交流を行い、より効果的な教育・保育の実践に努めております。

更には、幼稚園教諭・保育士に対する研修計画を策定し、経験年数や教育・保育における課題等に応じた効果的な研修の実施に努めます。

【提言 4】

公立幼稚園のバリエーションを増やし、一部3年保育や、保育時間の延長、縦割りのクラス等、それぞれの家庭の実情に合わせて選択できるようにしてはどうか。

【現状と対応】 [担当：幼児教育課]

市立幼稚園・保育所について、様々な立場の方から御意見をいただくため、専門的知見を有する学識経験者、保護者や民間事業者の代表、効率的運営に関する知見を有する行政評価委員等を委員として構成する「水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会」を立ち上げ、第1回の検討会を平成28年6月に開催し、その後、概ね隔月で開催しております。この検討会の中で、市立幼稚園の充足率の現状等を勘案した上で、市立幼稚園・保育所のあり方について、方針を取りまとめることとしております。

【提言 5】

公立幼稚園に、なぜ入園しないのか等、保護者にアンケート調査をしてみてもどうか。また、アンケート調査に基づき、保護者のニーズにあった幼稚園を作ってもどうか。あわせて、私立幼稚園の良い所（魅力）を調査し、取り入れてみるかどうか。

【現状と対応】 [担当：幼児教育課]

公立幼稚園への入園を促進するため、本年度、モデル事業として、内原幼稚園・保育所において、就労している保護者が、幼稚園も選択肢の一つとなるよう「預かり保育」の保育時間を30分延長し、保育所の保育短時間である午後4時30分までとしたところです。この事業を通して、「預かり保育」の保育時間の延長による効果を検証し、保護者のニーズの把握に努めます。

また、様々な立場の方から御意見をいただくため、専門的知見を有する学識経験者、保護者や民間事業者の代表、効率的運営に関する知見を有する行政評価委員等を委員として構成する「水戸市立幼稚園・保育所あり方検討会」を立ち上げ、第1回の検討会を6月に開催し、その後、概ね隔月で開催しております。この検討会の中で、委員である保護者の御意見をいただくなど、市立幼稚園・保育所のあり方について、方針を取りまとめることとしております。

【提言 6】

保育士や幼稚園教諭の離職率が高いと聞く。今年度から配置される相談員のスキルを磨き、職員の本音を聞き出すなど、現状把握に努めてほしい。また、聞くだけではなく、その後の改

善策もしっかり検討することが必要なのではと考える。

【現状と対応】 [担当：幼児教育課]

平成 28 年度から指導担当職員として、幼稚園長経験元小学校長 1 人、元幼稚園教頭 1 人、元保育所長 1 人の計 3 人を配置し、本年度においては、幼稚園長経験元小学校長を 1 人増員し、計 4 人体制としたところです。市立幼稚園・保育所への訪問や職員と面談等を行い、運営状況等の把握に努めるとともに、指導担当会議において情報を共有しながら、必要に応じて改善案を提案する等、市立幼稚園・保育所を支援しております。

《小・中学校について》

【提言 7】

現在の家庭のトイレは、ほとんどが洋式トイレである。そのため、今の小・中学生は、和式トイレを利用した経験がなく育ってきている。和式トイレを利用したくないという生徒も多く、そのような生徒は、家に帰るまで我慢しているのが現状である。

このようなことから、小・中学校のトイレを早急に洋式トイレにしてはどうか。臭いもひどいため、洋式化されるまでの間、換気扇を付けるなどの対応をしてはどうか。

【現状と対応】 [担当：学校施設課]

学校における洋式トイレの整備は、児童・生徒が安心して学校生活を送るために必要性が高いものと認識しており、整備に当たっては、快適で衛生的な施設環境になるよう、長寿命化改良事業等とあわせて、計画的に実施することとしております。一方、長寿命化改良事業等の計画が当面なく、洋式化率が低い学校や、特別な支援を要する児童・生徒が入学する場合など緊急性を伴う学校については、引き続き改修費を予算化し、洋式便器への交換のみの部分的な改修を進めてまいります。

また、学校のトイレには、通常換気扇を設置しておりますが、臭気が強いと感じられる場合等には、原因等を確認の上、適切な対策を講じてまいります

《子ども・保護者の負担軽減策について》

【提言 8】

塾、子ども会や少年団など、子ども達は忙しい状況である。今、塾に通うことは、当たり前のようにになっているが、本来、学校の授業のみで間に合わせるべきではないのか。原因としては、先生が忙しいということが考えられる。保護者への対応やレポートや資料の作成など、やるべきことが多く、子どもと接する時間が少なくなっている。先生が行っている事務などの改善を図り、負担を軽減し、その分、中身の濃い授業や子ども達と接する時間を多くすれば、塾に通わずに済み、子どもの負担も軽減されるのではないか。

【現状と対応】 [担当：総合教育研究所]

現在、教員の多忙化が指摘され、この解消は、重要な課題となっております。

しかしながら、授業時間や児童生徒の教育活動時間が減少したり、児童生徒に対する学習指導がおろそかになっていることはございません。多くの教員は、授業や学校行事の時間に児童生徒と向き合い、一人一人の児童生徒に対する学習指導や生徒指導の充実に努めております。そして、児童生徒が登下校した後、事務的な仕事を行っているため、長時間労働となっております。

事務量を軽減させ、長時間労働を解消することは重要であり、本年度から事務を効率的に行うため、校務支援システムを全校に導入しております。さらに、会議の時間を減少させることも重要ですので、管理職のマネージメント能力の向上に努めているところでございます。

今後とも、教員の事務量軽減に努め、教員の長時間労働の改善に取り組むとともに、教員の指導力を向上させ、児童生徒一人一人にとって、一層わかる授業の実現に努めてまいります。

なお、御指摘の児童生徒が塾に通うことにつきましては、保護者の判断で行っていることも御理解いただければ幸いです。

【提言 9】

塾、子ども会や少年団など、子ども達は忙しい状況である。その保護者も、昔と違い共働き世帯が多く、仕事をしながらの対応であることから、さらに忙しいのが現状である。このようなことから、高齢者など、手の空いている人にボランティアとして募集して手伝ってもらい、保護者の負担を軽減してはどうか。

【現状と対応】 [担当：市民相談室]

現在、登下校の見守り、学校周辺や地域の清掃をはじめ、様々な内容で高齢者の皆様や、たくさんの方々のボランティアの方々に御活躍いただいております。今後も、関係団体や地域の方々と連携し、市民協働に努めてまいります。(ボランティアの活動内容等が多方面にわたるため、関係課からの聞き取りにより、市民相談室からの回答とします。)

【提言 10】

少子化ということもあり、子ども会や少年団に加入していると、子どもの取り合いとなってしまう。例えば、市民運動会で、子どもにリレーに出場してほしいと話があっても、少年団の練習や試合がある場合、どちらかを辞退するようになってしまう。少年団によっては、練習に参加しないと試合に出場できないこともある。親としては、子どもには、様々な体験をさせたいと思っている。

このようなことから、子ども会、少年団や学校行事を調整するような組織を作ってはどうか。

【現状と対応】 [担当：市民相談室]

関係各課より意見を聞き取りましたが、関連団体が多岐にわたり、それぞれがスケジュール

に沿って行事を実施していることから、調整は難しいと考えます。

《その他》

【提言 1 1】

平成 28 年 7 月に「すまいるママみと」が開設された。妊娠中から産後 1 年未満の妊産婦さんの専用相談窓口ということであり、これから子を産む母親にとって心強い味方である。開設してから間もないということから、知らない人も多いと思うので、産婦人科と連携しながら PR に努めてほしい。また、市民は、「こんなことで相談していいのかな。」あるいは、「そんなことも知らないの。」と思われたいか、などを気にしてしまい、相談できない人も多いと思われる。このようなことから、どんなささいなことでも気軽に利用できることも、あわせて PR してほしい。

【現状と対応】 [担当：保健センター]

水戸市産前産後支援センター「すまいるママみと」は、妊娠期から産後にかけての切れ目ない支援を提供するため、平成 28 年 7 月に開設し、母子保健コーディネーターが、妊娠、出産、子育ての様々な相談に応じています。

当センターについては、広報みと（平成 28 年 8 月 1 日号）に特集記事を掲載し、「すまいるママみと」の他、水戸市の妊産婦支援事業として同時にスタートした、「母乳育児相談」、「産後ケア」、「妊婦歯科健康診査（医療機関個別健診）」の 4 つの事業についてお知らせしたほか、健康づくりガイドブックやホームページにも掲載し、PR に努めております。

また、母子健康手帳を発行する際には、「すまいるママみと」のチラシをお渡しして、妊娠届出をされた方全員に個別に説明するとともに、産婦人科の窓口にもチラシを備えて、PR にご協力いただいているところです。

今後とも、「すまいるママみと」が、妊娠、出産、育児に関して、より身近で利用しやすい相談先となるよう、産婦人科との連携をさらに強化し、引き続き周知に努めてまいります。

【提言 1 2】

「わんぱくみと」や「はみんぐぱくみと」の駐車場がせまく、すぐに満車になってしまふ。雨の日など、離れた駐車場から、小さな子どもを連れて、長時間歩くのはとても大変である。駐車場がすぐに満車になるということは、それだけ市民の利用が高く、人気のある施設ということであることから、施設の近くに無料駐車場の確保を検討してみてはどうか。

【現状と対応】 [担当：子ども課]

わんぱく・みと及びはみんぐぱく・みとにつきましては、開設以来、両施設合わせて年間 8 万人以上の市内外の方々にご利用いただいております。多様な講座、事業を展開し、子育て支援や多世代交流の促進のほか、まちのにぎわい創出にも寄与しているところです。

今後におきましても、本市の重要施策の一つである子育て支援及び多世代交流を推進するために、施設利用者に支障をきたさぬよう、状況を見ながら駐車場の確保について検討してまいります。

【提言 13】

校庭開放が無くなってしまい、子どもがボールを使用して遊べる場所が少なくなりました。体育館等の使用も検討するが、保護者の同席が必要であり、また、いつも予約済みであり、借りることができない。

このようなことから、子どもたちがボールを使用して遊べる空間を検討してはどうか。まずは、既存の公園のフェンスを高くして対応してみてもどうか。

今の子どもたちの遊びは、ゲームが中心となっているが、遊ぶ場所がないということも、一つの要因なのではないか。

【現状と対応】 [担当：公園緑地課]

現在、住宅地内にある規模の小さな公園においては、他の利用者に迷惑が及ぶようなボール遊びは禁止させていただいておりますが、市内には運動公園や千波公園、東部公園など、お子様と簡単なボール遊びなどができる多目的広場を有する、規模の大きな公園がいくつかございます。まずは、そのような公園を選んでボール遊びをしていただきたいと思います。